米子工業高等専門学校広報誌

彦名通信

No. 151
平成19年12月

全国高専デザコン三冠

建築学科学生47名と教員5名が挑んだ本選2日間…3部門制覇!!!

空間デザイン部門

構造デザイン部門

ものづくり部門

CONTENTS 目次

イベント特集
高専デザインコンペティション …… 2・3
高専ロボットコンテスト …… 4
高専プログラミングコンテスト …… 5
高専祭 …… 6・7

クラス便り
2年機械工学科・電気情報工学科 …… 8
2年電子制御工学科・物質工学科・建築学科 …… 9
3年機械工学科・電気情報工学科 …… 10
3年電子制御工学科・物質工学科・建築学科 … 11

クラブ便り
活動報告 …… 12

研究活動
専攻科生の研究紹介 …… 12

教務より
教務の学習支援活動 …… 13

寮生会便り
寮行事紹介 …… 13

トピックス
トピックス …… 14・15

地域交流
公開講座・地域貢献活動 …… 16
編集後記 …… 16

デザコン2007 in 周南 *3部門で最優秀賞!! 合計7つの賞を受賞!*

■構造デザインコンペティション

最優秀賞（文部科学大臣賞）「オリガネ」、「米子ブリッジ」
鹿島孝政（5A）、髙栁秀明（5A）、安井郁也（5A）、安川大地（4A）、藤田尚志（建築学専攻１年）、森田大貴（建築学専攻１年）、和田昭弘（5A）、井田蘭（5A）、辻広志（4A）、吉山圭輔（4A）、富谷広基（4A）、梅林充（4A）

審査委員特別賞（Gold Coast Prize）「米子ブリッジ」
和田昭弘（5A）、井田蘭（5A）、辻広志（4A）、吉山圭輔（4A）、富谷広基（4A）、梅林充（4A）

■環境デザインコンペティション

審査員特別賞（アイデア賞）
「照ル照ルボード～ヒト×オト×ヒカリ～」
竹谷輝夫（5A）、小椋康司（5A）

■空間デザインコンペティション

最優秀賞（山口県知事賞）「もうひとつのまち」
竹田純平（5A）、仲村友太朗（5A）

優秀賞（山崎建設賞）
「まちリビング～アクションスタディによるつながりの再生～」
藤原佑樹（5A）、石村悠造（5A）、嶋田恭平（3A）

■ものづくりコンペティション

最優秀賞（周南市長賞）「play*search」
山崎恵（5A）、高橋和歌子（5A）、宮本侑季（5A）、潮宏美（5A）、児島かおり（5A）、生田朗子（4A）

審査員特別賞（デザイン賞）「カク・レン・BOARD」
上田輝美（建築学専攻２年）、髙栁秀明（5A）、安井郁也（5A）、松本雅志（5A）、寺本哲郎（3A）、渡部大樹（3A）

― 本選出場学生の喜びの声 ―

■ 米子高専建築学科はすばらしい環境です

4A　安川　大地（構造デザイン・最優秀賞）

僕は、今年はじめてデザコンの本選へ参加することができました。構造系の研究室に所属しているので、中心となる５年生のサポートという立場でしたが、ステンレスブリッジの製作メンバーに選ばれました。今年は、米子高専から多くの案が予選を勝ち抜き本選へ出場することになっていた事にとても驚きました。本選へ出場することが決まってからは、部門や作品は違っても、学校内でそれぞれがより良いものを創ろうと多くの時間を費やして作業をしていることに、一体感を感じることができました。本番までにみんなが満足できる出来に仕上がったかはわかりませんが、米子高専は多くの賞を受賞することができ、結果はとても良いものだったと思います。僕の参加した構造部門でも米子高専は最優秀賞（文部科学大臣賞）を受賞することができ、どこよりも熱心に取り組んだ事が結果に表れたものだと感じ嬉しく思います。僕はもうひとつ空間デザインの部門にも応募しましたが予選を通ることはできませんでした。この部門では米子高専の２組の先輩方が最優秀賞と優秀賞を受賞し、とてもすばらしいと思いました。今回のデザコンを通して、米子高専という環境で勉強できているということの良さを再確認でき、また、デザコンに出場したことで多くの事を得ることができたと思います。来年は自分の力で出場することを目指し、努力を続けていきたいです。

■ 3年間のデザコンを通して学んだこと

建築学専攻1年　加納奈津子（空間デザイン・3年連続本選出場）

私は４年のときに初めてデザコンの予選を通過し、それから５年、専攻科１年と３年連続で予選通過し、本選での発表を行いました。この３回のデザコン予選通過を通し、結果だけではない様々なことを学びました。予定がうまく立てられず、発表ぎりぎりまでパワーポイントができなかったことや、模型など多くの友達に助けられてきたことを考えると、決して１人では発表までこぎつけていなかったのではないかと思う年もありました。先生方にアドバイスをもらい、発表前日まで宿泊先のホテルで徹夜で手直しをしたり、発表練習をしたりと、プレゼンの準備作業は考えれば考えるほど改善する点が出てくるので、終わりのない作業でした。もちろんコンペなので、結果も大切だと思います。しかし、予選を通過し、自分の作品を審査員の方にどうしたらうまく伝わるのか、どんな模型をつくればわかりやすいのかと、真剣に考え、伝えようと努力することも結果に勝るくらい大切だということを学びました。本番では審査員の先生方に貴重な意見をもらうことができたので、来年のデザコンもこのような経験を活かし頑張りたいと思います。

審査員とポスターセッションで（空間デザイン）

■ デザコンを終えて…。

5A　山崎　恵（ものづくり・最優秀賞）

表彰式のとき、“頭が真っ白になる” ってこういう事なのだと気付かされました。私たちの作品が呼ばれた瞬間、“信じられない” という気持ちと、これまでデザインや試作の段階にメンバー同士でぶつかり合った事が頭の中を駆け巡りました。

男子が大半を占める「ものづくり部門」に女子だけ６人で参加し、朝から夜までの長い作業時間。夕方からの作業は疲れだけでなく、寒さとの戦いにもなりました。回って来られる他校の先生に「米子高専は女の子しか居ないのか？」と聞かれたこともありました。

一度、学校で実寸大の試作品を作ってみていたこともあり、本番では女の子特有の団結力でスムーズに作業を進めることが出来ました。仕上げの段階では子供の目線に立って、危険の可能性がある角を落として滑らかにするなど、自分たちに出来る精一杯をぶつけました。いろいろな壁に当たって立ち止まる事もあったけど、６人で最後までやり遂げる事が出来たのは、一生の宝になりました。

ー 各部門を振り返って ー

■ 環境デザインコンペティション

建築学科　兼子　朋也

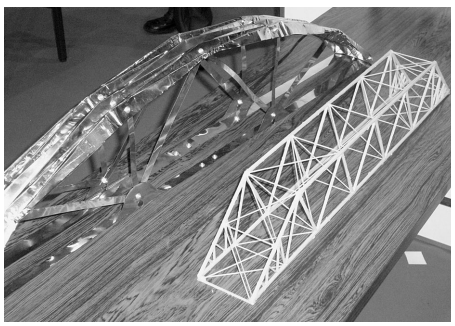
テーマは「みちのあかり-LED de Eco Road-」。LEDを使用して、環境に配慮した新たなつながりを創造するみちの明かりを提案することが求められ、応募62作品中、20作品が本選に進出し、発表とポスターセッションにより審査が行われました。本校からは４作品が予選を通過し、これは全国で最も多い数でした。その中で、竹谷・小椋（５A）ペアは、「照ル照ルボード」と名付けられた音楽再生機能と情報機能を付加した新たな明かりを提案し、既存の街灯によらず、個人が携帯する光が街を彩り、新たな都市の表情と息吹を創出する構想が高く評価され、審査員特別賞（アイデア賞）に輝きました。今回の環境デザインコンペティションには全国の建築・土木・デザイン系の学科からだけでなく、電気・電子系の参加もみられたのが特徴でした。石見銀山の坑道（間歩）をサザエの殻の LED ランプ（螺灯）で照らす松江高専（電気・電子・情報の混成チーム）の作品が、間歩を再現したど派手な模型と浴衣による発表により注目を集め、最優秀賞を獲得しました。

■ 構造デザインコンペティション

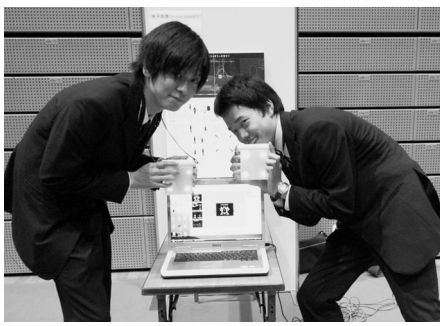
建築学科　松本　幸大

構造デザインコンペティションは、ステンレスブリッジとパスタブリッジの２つの競技種目が設置され、２種目の総合成績で評価されます。ステンレスブリッジは、厚さ0.1㎜のステンレス板を使用して長さ960㎜、幅100㎜、高さ200㎜、重さ310ｇ以内という条件の下、パスタブリッジは、市販のパスタを使って長さ648㎜、幅80㎜、高さ102㎜、重さ100ｇ以内という条件の下でブリッジを制作しました。これまでに使ったことのない材料を目の前に手探りで始まったブリッジ制作は、実験と問題箇所の修正の繰返しによって構造性能を向上し、写真のような美しいブリッジを完成させることができました。本選には31高専55チームが競技会場に集いました。ステンレスブリッジは耐荷重55㎏（耐荷重４位）、パスタブリッジは耐荷重4875ｇ（耐荷重１位）という優秀な記録を達成し、２種目の総合評価の結果、本校の構造デザインコンペティション出場チーム（２チーム12 名）が最優秀賞・文部科学大臣賞を受賞しました。また、耐荷重１位となったパスタブリッジ出場チームには審査委員特別賞が授与されました。

寒さに耐えながら作業しました（ものづくり）



「オリガネ」と「米子ブリッジ」（構造デザイン）



LEDを使用した実物大模型（環境デザイン）

■ 空間デザインコンペティション

建築学科　田口　陽子

「新まちなか居住施設～とぎれた「つながり」の再生～」がテーマでした。徳山駅周辺の対象範囲から敷地を設定することが求められましたが、地方都市が共通に抱える中心市街地の空洞化をテーマ背景としており、本校の学生にとっては、米子中心市街地の身近な問題として捉えられるものでした。設計課題や卒業研究・設計における日頃のまちへの問題意識が、今回の好成績につながったのだと思います。

最優秀賞の竹田・仲村案は、建物更新とともに街区内に路地的な歩行者空間を形成させるシステムを提案しました。通行者と居住者のつながりの濃淡、都市と住居の有機的な関係をつくりだす、新しい都市居住のあり方として高く評価されました。優秀賞の藤原・石村・嶋田案は、住宅内で完結している行為をまちに展開させようというもので、家具的なツールによる「まちリビング」を商店街に提案しました。住民参加の提案など、人間を中心においた空間デザインとして評価されました。全く異なるアプローチの２案でしたが、本番直前まで切磋琢磨する彼らの姿は周りにも強く響きました。結果も重要ですが、彼らがその過程で得たものはもっと大きいと思います。

■ ものづくりコンペティション

５A　山上菜々子（ものづくり・入賞）

ものづくりのテーマは、周南市にある徳山動物園に木材を使ったファニチャーによって「いのち」の大切さ、「ひと」と動物の「つながり」を提案するものでした。予選は、図面によって選抜され、本選は、会場で２日間（計12時間）で実際に作品をつくり、その出来栄えとプレゼンテーションによって審査されました。

材料となる木材は、長さ１ｍの円断面６㎝と、それを半分割材にした間伐材（杉）を使用するものでした。この間伐材は、林業を行う際にでる、節が多く割れやすい売り物にはならないような本来捨てられてしまうものです。材料によっては曲がっているものもあり、それを考慮した上で設計しなければいけませんでした。また今回は丸太を使用するということで、曲面同士の接合など、とても苦労しました。

今回本選に通った15作品のうち、米子高専は４作品通過という最も多い出場でした。そのうち上田案の作品がデザイン賞。そして高橋・山崎・宮本案の作品が最優秀賞を受賞するという好成績を残しました。

実際につくるということを通して、ものづくりは、チームの団結力と達成感の大きい競技であったなと感じました。

高専ロボットコンテスト2007

高専ロボコン2007結果報告

指導教員　機械工学科　矢壁　正樹

高専ロボコンのテーマは毎年ゴールデンウィーク前に発表されます。今年度のテーマは「風林火山　ロボット騎馬戦」と題して、ロボット２台に搭載した５本の旗をロボットが奪い合い、３分間の競技時間内で旗の本数を競う競技です。約２ヶ月かけてアイデアを練り、学生達は夏休み返上でロボット製作に取り組みました。校内大会の結果、代表に選ばれ、機械工学科チームのロボット「旗昇転決」は10月28日に開催された中国地区大会に参加しました。結果は第１回戦に呉高専と対戦し、大勝利（相手の５本すべての旗を奪うと「大勝利」と表現します）、２回戦に津山高専と対戦し負けました。しかし、独自に製作した自由自在の方向に走ることができる駆動輪などが評価され、全国大会への出場権を得ることができました。本校として７回目、機械工学科チームとしては５回目の全国大会出場となります。ロボコンに参加する学生にとって、全国大会に参加することが目標で、機械工学科チーム15名の学生も学校生活の大半をつかってロボコンに打ち込んできました。学生の報告に任せ、全国大会の結果は省略しますが、学生の奮闘・努力に大きく敬意を表します。特に今年度は高学年の学生の指導力により、低学年の学生がよくがんばってくれたと思います。来年度以降の活躍に大いに期待したいと思います。様々に応援・ご協力いただいた保護者の皆様、OB諸氏、本校教職員に、この場をお借りして御礼もうしあげます。ありがとうございました。

ロボコン2007中国大会を振り返って

指導教員　電子制御工学科　山本　英樹

今年度のロボコンのテーマは、各チーム２台のロボットで相手の旗を取るロボット騎馬戦でした。電子制御工学科チームは、「Sturm Käfer」というロボットで中国大会に出場しました。これはカブト虫のような角で旗を奪うロボット、羽の形のアームで旗を奪うロボットおよび別の形の角がついた予備ロボットの３台の構成です。試合ではロボット同士がぶつかり合うので、頑丈かつ素早いロボットを目指しました。製作段階では、マシンの強度と重量制限の間で苦しみましたが、大会までに３台のロボットを完成させ、テストを繰り返して完成度の高いロボットに仕上げました。大会では１回戦で準優勝の津山Ｂと当たり敗退しましたが、１年生からロボコンに参加していた５年生３人の成長を実感した大会となりました。最後になりましたが、応援していただいた保護者、卒業生の皆様、支援していただきました本校教職員の皆様にこの場をお借りしてお礼を申し上げます。

競技課題	「風林火山　ロボット騎馬戦」	
ロボット名	旗昇転決	Strum Käfer
参加学生	5M生田恵里、5M谷口寛信 5M三田寛樹、4M山根淳史 4M山脇奈都子、3M米澤佑一 2M笹間あかり、2M西林郁弥 2M新　優志、2M太田拓巳 2M藤本滉太郎、1M近藤利樹 1M篠原篤広、1M中川拓実 1M前原誠一	5D角田俊一、5D大島由也 5D山﨑彩夏、4D谷岡雅俊 2D小松紀由、2D伊藤夏織 2D南家康晴、2D山脇　怜
結果	全国大会2回戦敗退	中国地区大会１回戦敗退

高専ロボコン2007全国大会を終えて

5M　三田　寛樹

私たち機械工学科ロボコンチームの製作したロボット“旗昇転決（きしょうてんけつ）”は11月25日に行われた全国大会に出場しました。今年は例年より製作するロボットの台数が多くなり、後輩たちにも大きな負担をかけてしまいました。しかし、その甲斐あって昨年より完成度の高いロボットを仕上げることができました。１回戦目は相手ロボットの旗を全て奪い、「大勝利」をおさめることができました。２回戦目では優勝チームの北九州高専と対戦し健闘しましたが、敗退という結果になりました。全国大会への出場は４年ぶりとなり、私たちのチームメンバーの中でも経験者は２人しか残っていません。今年全国大会へ出場することができたので、全国大会の経験者を絶やすことなく、後輩たちにとっても良い経験になったと思います。最後になりましたが、ロボットの製作に携わった後輩たち、応援してくださった先生やOB、保護者の方々にこの場を借りてお礼申し上げます。

高専ロボコン2007中国大会を終えて

5D　角田　俊一

電子制御工学科チームは新メンバーを４人加え、総勢８人で今年の高専ロボコンに挑みました。今年は、今までの経験が生きたのか例年より早く、思うとおりの動きをするロボットが出来上がり、完成度の高い状態で中国大会に挑むことができました。しかし、中国大会１回戦で津山Ｂと対戦し、負けてしまいましたが、この５年間のロボコンの活動で得ることができた多くの知識や経験は今後の人生でも大いに活用できるものと思っています。最後になりましたが、工作等のご指導を頂いたものづくりセンターの先生方、遅くまでの輪番やご支援頂いた電子制御工学科の先生方、様々な面でサポートして頂いた機械工学科の皆様、ご声援下さった教職員、ＯＢ、保護者の方々にはこの場を借りてお礼申し上げます。

第１８回全国高専プログラミングコンテスト

第18回全国高専プログラミングコンテスト

指導教員　電子制御工学科　河野清尊（課題部門、自由部門）
一　般　科　目　倉田久靖（競技部門）

第18回プロコン本選が10月６日（土）と７日（日）の両日、津山文化センターを会場にして行なわれました。大会は６月の書類審査による予選を通過した課題部門21作品、自由部門20作品および競技部門55チームによって競われました。また、課題部門と競技部門には、ベトナム国立大学ハノイ校と中国の大連東軟情報学院からの参加もありました。

米子高専からは、課題部門と自由部門に各２作品および競技部門に１作品の応募を行い、３年連続のフルエントリーを達成することできました。そのうち、課題部門と自由部門の各１作品と競技部門の１作品が予選を通過して本選に出場しました。本選の結果を別表にまとめました。

学生たちは予選通過後、作品の完成を目指して努力してきました。目標とした文部科学大臣賞の最優秀賞や優勝を勝ち取ることはできませんでしたが、学校の勉強の中では得られない貴重な経験を積むことができたと思います。この経験を生かして、来年の第19回大会（福島高専主管、いわき市開催）で再チャレンジしてくれることを期待しています。

本選当日は水島校長先生をはじめ多数の教職員の皆さんに応援に駆けつけていただきました。ありがとうございました。今後とも皆さんのプロコンへのご理解とご支援を宜しくお願いします。

なお、今大会では、本校留学生のヴォン君がベトナム国立大学ハノイ校チームの通訳役をプロコン委員会から依頼され、10/４（木）から10/８（月）までの５日間津山市に滞在して献身的に行ってくれました。

（第18回大会の結果・模様はプロコン公式サイトに掲載されていますのでご覧ください。http://www.procon.gr.jp/）

競技部門に参加して

２Ｄ　左久間一幸

今回のプログラミングコンテストへの参加は非常に大変でした。僕達のチームは全員２年生でプログラミングの経験も浅く、初参加だったからです。製作のペース等もよく分からず間に合うか心配でしたが、先生方や先輩方の力添えもあり何とか完成し、参加まで辿り着くことができました。

本番では勝つことができませんでしたが、チームワークもよく、初参加にしてはなかなかの成績だったと思います。また、参加して他校のレベルの高い作品を見ることができました。今回はたくさんのことを学ぶことができたので参加して本当によかったと思っています。

	課題部門 テーマ：「子供心とコンピュータ」	自由部門	競技部門 テーマ：「石垣工務店」
作品名	リトル・リトル・アドベンチャー －動物視点・動作体感システム－	折り紙おりまぅす －折り紙作成支援システム－	導 －ｄｏｈ－
学生	5D吉岡慎二、5D野田祥子 5D村田大介、2D笠見康敏	4D井口康啓、4D影山達也 4D金谷拓実、2D北村裕介 2D角田一樹	2D左久間一幸 2M湊﨑拓也、2E澤下　陽 （コンピュータ同好会）
結果	敢闘賞	敢闘賞	1回戦敗退 （9チーム中6位、上位2チームが準決勝進出） 敗者復活戦敗退 （9チーム中4位、上位2チームが準決勝進出）

課題部門に参加して

５Ｄ　吉岡　慎二

スケジューリング能力が未熟であったために後半に作業が集中してしまいました。もっと、余裕を持って取り組めるよう、詳細な開発スケジュールを明確に立てて、定期的に皆で打ち合わせをしながらスケジュールを修正していく必要があったと感じました。また、デバッグにあまり時間を割くことができなかったため、本番ではバグが残ったままでした。このバグの多くは時間を掛ければ十分に消せたものだったので、プロコン終了後の高専祭では、バグをある程度消して出展することができました。小さな子供達にも喜んでもらえたので嬉しかったです。

自由部門に参加して

４Ｄ　井口　康啓

今回がプロコンへの参加は初めてでした。実行力が足らなかったために、自分の担当である入力装置の製作では、案ができてから実際の製作に取り組むまでに時間をかけ過ぎてしまい、完成もぎりぎりの状態でした。できあがった装置もプロコン２日目には完全な状態での使用ができなくなりました。プログラムの方も完成度は低い状態で、自分たちのできたこと、できなかったことを実感させられました。

今回プロコンに参加したことによって、反省する点も多かったですが、反面、装置作成やプレゼン等、普段学校ではできないことができて、良い経験になったと思っています。

第44回　高専祭「えん」

11月２日～４日の３日間、「えん」（縁、援、円、宴etc）をテーマに、高専祭がにぎやかに開催されました。

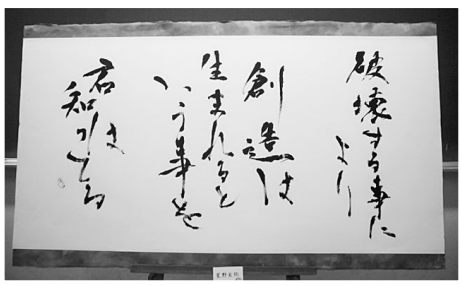
裏お化け屋敷

１A　多城　茉莉奈

実際、本気でギリギリまで作業していました。しかし！当日の朝、学校へ行くと、壁が崩壊していました。必死で補強し、どうにか始めることができました。が、昼になりまた崩壊！本当に１日目は大変でした。２日目は、またしても朝一で壁の補強作業でした。そして営業開始！１日目よりもたくさんのお客さんが来てくれました。お化けも増えました。いろいろと大変でしたが、とても楽しむことができました。

巨大ジェンガ（建築研究同好会）

茶・華道部

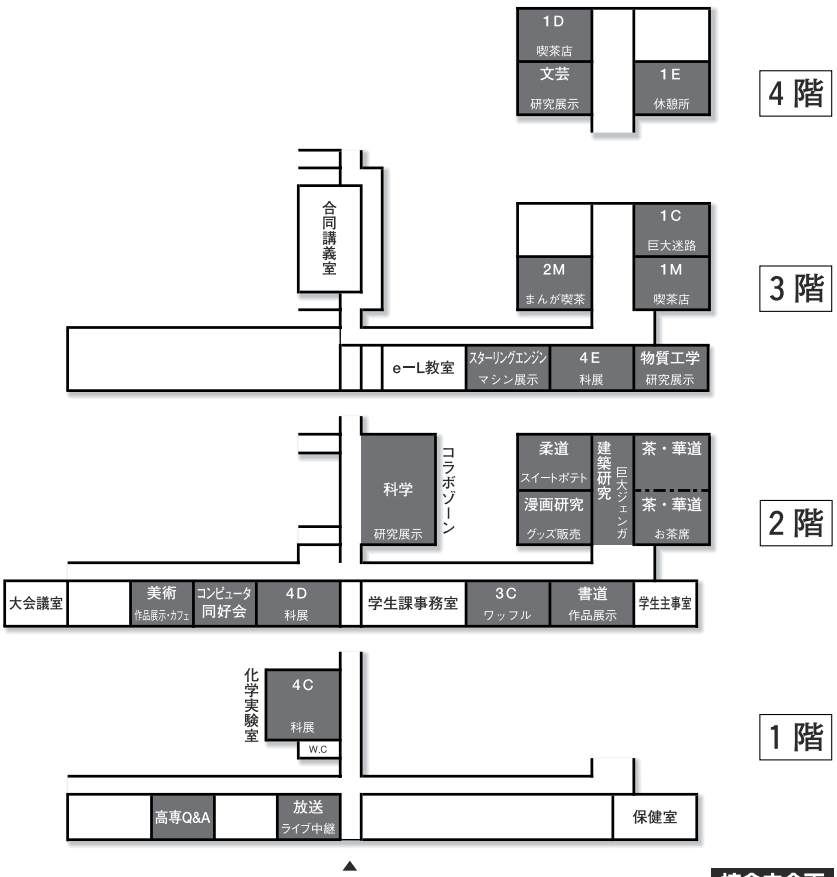


書道同好会

記憶に残る２日間

５C　隅　英彦

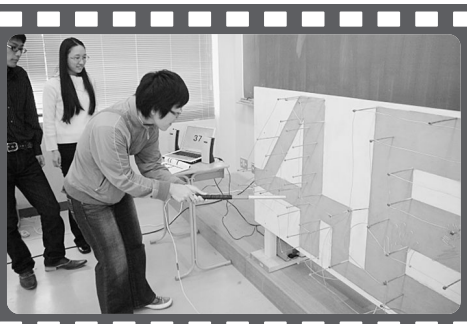
今年の高専祭は、記憶に残る忘れられない高専祭となりました。今年は「満腹感を感じられるものを作る」というテーマのもとドライカレーをやりました。いよいよ高専祭の１日目です。昼時での売れ行きは予想以上のもので、１日目が終わった時点で用意していたものが数少なくなり、買い出しに行き２日目に備えました。２日目も売れ行きは好調で、見事に完売させることができました。結果的には２日間合計で 350食も売ることが出来て本当に最高の高専祭になったと思います。こうして無事成功を収めることができたのも、クラスの皆の協力があったからだと思います。



校舎内企画

機械が奏でるオーケストラ（4D）

化学実験（4C）



イライラ棒（4E）

『えん』

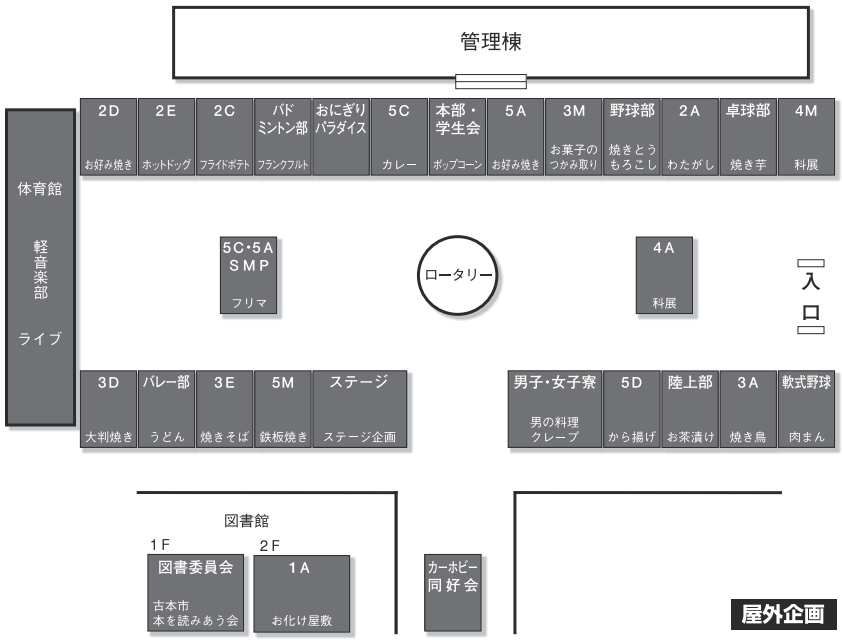
高専祭実行委員長　4M　村社　優希

毎年、様々な色で沢山の人たちを楽しませてくれる高専祭。今年の初め、その実行委員長を任された時には正直驚きました。僕は今年度から学生会に入り、何もわからないまま高専祭の準備に取り掛かった事を覚えています。

準備期間中、毎日頭の中では高専祭の事がぐるぐると回り、時には投げ出しそうになりながらも、なんとか開催に間に合った時にはとても感動しました。沢山のクレームも出ました。他にも不満は沢山あったと思います。僕は、不満を抱えたまま高専祭をむかえる人が居てほしくなかったので、そういったクレームを出来る限り解決していきました。それは、高専祭にかかわった全ての人に、楽しく、おもしろく、高専祭を過ごしてほしかったからです。

そういった中で僕を支えてくれたのはやはり学生会の仲間でした。苦しい時、辛い時、困った時に、沢山の先輩や同級生、後輩が傍にいて助けてくれたこと。僕はそういった縁に感謝したい！そして、高専祭にかかわった全ての人に感謝したいと思います。本当にありがとうございました！！

ステージ企画



入　口

クレープ（女子寮）

ライブ（軽音楽部）

カーホビー同好会

お化け屋敷（1A）

移動式住居 ゲル（4A）　　蒸気機関搭載車（4M）

2　年

学年主任　一般科目
酒　井　康　宏

■在籍学生数（11月6日現在）　　（　）女子の内数

2M	2E	2D	2C	2A	計
40(2)	44(2)	39(6)	48(17)	44(21)	215(48)

去る10月18日（木曜日）から19日（金曜日）にかけまして、第２学年計200余名が島根県の三瓶青年の家で校外研修を行いました。幸い大きな怪我もなく、好天に恵まれ、それぞれ各個人、各クラスにとりましては有意義な活動が出来たと思います。

特に朝のつどいと夕べのつどいで挨拶をしたクラスの学生、ならびに朝のつどいで司会を務めたクラスの学生にとっては、これまでにない全く新しい経験が出来たのではないでしょうか。異なった団体も交えたこれらのつどいでは、人前で大きな声ではっきりと、自分の意見や挨拶を述べなければならないからです。これらの経験を生かし、２年生後半の日々を有意義に過ごしてください。引率の先生や関係の教職員の皆様に感謝いたします。

機械工学科

担任　川　邊　　博

人のために何かをしてあげる姿や、人を思いやる所作に接すると、見ているだけで気持ちが晴れるものです。これが自然に出ないときでも、促せばすんなり出てくる。そんな素直な明るさがこのクラスにはあります。

三瓶山にて　　桶　本　貴　宏

僕達２Mは、三瓶青年自然の家でグランドゴルフやハイキングなどを楽しみました。グランドゴルフは各班に分かれ、各自でコースを考えながら楽しみました。途中、とても難しいコースもあり、ＯＢ続出など思っていたよりも難しく、とても盛り上がりました。夜には卓球とバトミントンをして、みんながいい汗を流し、クラスの交流を深めることができました。２日目は午前中、宿泊先から少し離れた山へハイキングに行きました。ふもとから途中までリフトを使い登りました。途中でリフトが止まるトラブルもありましたが、無事登ることができ、クラスで集合写真をとり、歩いて帰りました。途中で牛の親子に出合うなど自然と触れ合うことができてよかったです。宿舎に着き、野外炊飯とバーベキューをしました。どの班も上手に調理していて、とてもいい経験になりました。この２日間、天候にも恵まれ、予想以上にすばらしい体験をすることができました。また、とてもよい施設を用意して下さった青年自然の家の方々へ感謝します。本当にありがとうございました。

電気情報工学科

担任　布　施　圭　司

２Ｅは10月の校外研修では、自然の中でサイクリング等を行い、親睦を深め、集団生活を学びました。11月の高専祭では、ホットドッグ屋を出店し、大盛況でした。今後も勉学や課外活動にしっかりと取り組んでほしいと思います。

校外研修　　井　上　桃　佳

１日目のサイクリングは、マウンテンに乗るのが初めてだったので、乗るまでは怖かったです。でもやってみると意外とちゃんと乗れたので安心しました。道のりは坂がいっぱいあってけっこう大変でした。というかものすごく疲れました。でも、景色を見る余裕が少しあったところでは、大山とはまた違っていてきれいだなと思いました。２日目はテニスとソフトボールをしました。少し寒かったけど、体をいっぱい動かしてとても楽しかったです。生活全体で他のクラスの人とたくさん話をしたりして少しは交流も深まったかなと思いました。また、施設の決まりを守ったり、時間前に行動するなど当たり前のことですが、そういうこともきちんとでき、改めて集団で生活するときの大切なことを学べました。行く前はあまり乗り気ではなかったものの、三瓶山に行ってみてとても充実した２日間を過ごすことができて良かったと思いました。

電子制御工学科

担任　原　　豊　二

２Ｄです。個性的な学生が集まっています。心配なこともありますが、それも成長過程だと思って、担任としてできることから取り組んでいます。「感動する」ということ、このことを彼らには体験していって欲しいと思います。

校外学習で得たもの　伊　藤　夏　織

私が校外学習で得たこと（もの）は２つある。

１つ目は、ソフトボールやダッチオーブン料理、肝試しなどを通じて、普段話さない人達と関わることができ、クラスがより近い存在になったこと。

２つ目は、怪我をして初めて、そしてやっと気付いた。西嶋さんが嫌な顔一つせず包帯を替えてくれたこと。料理班の皆が手伝ってくれ美しい料理が完成したこと。友達と一緒に笑ったこと。私は多くの人々に助けられ支えられて、充実した楽しい毎日を送っていることに気付いた。私は「２つ」なんて決めれない、更に大きな価値があるものを得ることができた。

物質工学科

担任　中島　美智子

２Ｃは48人と高専一の大所帯の学級です。そのせいか、「まとまりがある」とはお世辞にも言えませんが、ひとりひとりの個性が強く、それが集結すると、48人以上の力を発揮できる可能性を秘めています。今後、色とりどりの花が集まり、どんな花束に成長するのか乞うご期待下さい。

三瓶研修に参加して　永　井　　雪

私たち２年生は、２日間に渡って三瓶青年の家に研修旅行に行きました。三瓶までの道のりは意外と長く少し疲れましたが、三瓶山の雄大な自然を目にした瞬間、すがすがしい気分になりました。宿舎に入った時、まずそのきれいさに驚きました。今まで利用された人たちがいかに大切に使ったのかを考えさせられ、担任の先生に言われたように、「来たときよりも美しく」帰ろうと思いました。食事はどこか懐かしさを感じる温かい料理で、とても美味しかったです。バイキング方式で自分の好きな量だけ食べられたのも魅力的でした。私たちの計画ではバスケと映画鑑賞を行うことになっていたため、自然と触れ合う活動はありませんでしたが、外を移動した時や星空を眺めた時に、自然を直に体感することができました。三瓶研修を通してクラスの親睦を深めることができ、有意義な時間を過ごせたと思います。

建築学科

担任　酒　井　康　宏

２年建築学科です。校外研修では外の活動ではなく、中での活動が主でやや心寂しかった面はありますが、自由参加のレクリエーションではキャンプファイヤーの歌やギターを弾いて大いに盛り上がりました。（参加人数はクラスの約半分… 入浴と平行の時間帯なのでやむを得ないか？）

研修旅行　藤　原　　翔

三瓶に着いて初めに思ったのは「寒い!!」ってことでした。元々、山の方の生まれなので寒さには慣れがありましたが、長い間米子にいたせいか、とても寒さを感じました。昔に１回だけ行ったことがあり、少し懐かしさがありました。その時とは寝室や談話室がきれいになっていて過ごしやすかったです。

食事は少し期待して行きましたが、やっぱり寮食に比べるとおいしかったと思います。メニューも結構あり、毎回お腹が満たされました。夜はテレビを見たり雑談をしたりと何だか修学旅行に行ったような気分でした。

２日目はバスケをしたり、いりすの丘に行きました。着いてすぐに昼食をとり、ここでもバイキングでしたが、すごく種類があって食べ切るのが大変でした。食べてばっかりの２日間でした。

3　年

学年主任　一般科目
南　　雅　樹

■在籍学生数（11月6日現在）　　（　）女子の内数　【　】留学生の内数

3M	3E	3D	3C	3A	計
41(0)【1】	36(2)	42(2)【1】	36(18)	42(20)	197(42)【2】

第３学年の最も大きな学年行事である工場見学旅行は、大きなトラブルもなく、また最終日を除き天候にも恵まれ、無事その目的を達成することが出来たように感じます。

各クラスともに、４～５社の企業、工場あるいは建築現場を見学し、企業やものづくりの現場を肌で感じたことと思います。その経験を活かして第４学年のインターンシップでは、学生一人一人がその実力と見識をより高めてほしいと期待します。

また、この行事の目的・意義とは異なりますが、２泊３日の旅は良い意味でクラスの絆・縁を深める修学旅行だったかもしれません。自由時間での楽しそうな顔が、そう物語っていました。

最後に、学年行事の意義にご理解を賜り、ご負担を頂きました保護者の方々に、また、引率教員、関係の教職員にはこの場を借りて深く感謝申し上げます。

機械工学科

担任　矢　壁　正　樹

今年度は川崎重工明石工場、新日本製鐵広畑製鐵所、三菱重工高砂製作所、三菱重工神戸造船所の４つの工場を見学させて頂きました。41名全員が参加でき、皆のおかげで有意義な旅行になりました。全員に感想文を書いてもらいましたが、その内から抜粋して紹介します。

工場見学旅行の感想　小　谷　拓　也

工場見学旅行は、どの工場もスケールの大きさに驚かされました。しかし、見学の最中には自分の知識から推測できることがあり、いままで学習してきたことが実践的であることが確認できました。また、知識をより深めることが技術者により近づけることだと思ったので努力していきたいです。

工場見学旅行の感想　藤　原　将　平

米子には無いような巨大な工場を４つも見て、すごく勉強になりました。工場見学旅行に行く前は神戸造船所の見学と自由行動だけを楽しみにしていたけど、実際に工場を見てまわると、すごく楽しくて、本当に良い旅でした。機会があれば、もっといろんな工場を見てみたいと思いました。たくさんの知識を持ってないといけないし、ちゃんと勉強していないと就職に困ると思ったので、頑張ろうと思いました。

電気情報工学科

担任　南　　雅　樹

１名が体調不良から不参加となりましたが、35名は見学先で真剣に、活発な質疑応答をしてくれました。企業という組織体やものづくりの現場を見るという貴重な体験から、将来に向けて何かを掴んでくれたことと思います。

工場見学旅行の感想　福　田　英　幸

工場見学旅行に行く前に、企業のどこを見ればよいのかということを考えていました。一社あたり２時間程度の工場見学ということで、仕事内容などを十分に把握することは無理だと思い、以下の事項を重点的に見ることにしました。①従業員の働く様子、②学生への対応、③社内（工場内）は清潔かどうか、④トイレは豪華かどうか、…【以降、中略】。

３社目の森精機伊賀事務所では「個人」というキーワードを重要視している印象を受けました。また、「モノづくりは、人づくり」の基本理念をもとに、人材の育成の点から技能士など国家資格取得や語学教育も受けさせるなど、ここでも「個人」というキーワードが感じ取れます。工場内は清潔に保たれており、学生への対応も良く、資料もしっかりしていて、企業の宣伝に対する真剣さが感じ取れました。もちろんトイレはきれいでした。

最後に、貴重な時間を割いて見学させていただいた企業の方々や、先生方には本当に感謝しています。人生最後の学生としての旅行をいい思い出にすることが出来ました。

電子制御工学科

担任　加　納　尚　之

工場見学旅行では、日頃は見ることができないようなところも見学させて頂き、学生たちのまなざしがとても真剣で、彼らの将来が頼もしく思えました。今後の進路を決める上で、非常に良い刺激になったと思います。

校外学習で得たもの　佐々木　基　之

３Ｄは、フジキン、大阪ガス、サントリービール工場の３社を見学しました。フジキンでは日常生活に欠かせないバルブというものを見せて頂きました。バルブは宇宙開発産業にも欠かせないそうです。他にも半導体製作時、ゴミがつかないように、ウルトラスーパークリーンルームというゴミの無い部屋を使用されていました。

サントリーではビールができるまでの工程を見せて頂きました。ビールに使われている麦、ホップ、水はどれも厳選されたもので、１本のビールにするのは全て自動で、１分間に千本程度が生産されていました。

大阪ガスでは温暖化と酸性雨の実験を見せて頂きました。地球が大変なことになっているのを知ることができたと同時に怖さも感じました。サントリーも大阪ガスも環境問題に積極的に取り組んでおり、エコの大切さを知ることができました。

物質工学科

担任　藤　井　雄　三

普段は元気なクラスですが、他のクラスより人数の少ないためか講義は反応の乏しいクラスでした。しかし、工場見学旅行では例年以上（？）に活発に質問し、講義でも少しずつ元気になってきているようです。

工場見学旅行　影　山　麻　夕

最初のダイキン工場はとてもチーム性を感じました。また、工場の規模にびっくりしました。ダイキン＝エアコンの考えが強かったのですが、フッ素樹脂など化学との関連性がよくわかりました。

サントリーは「キレイ・清潔」という印象です。一般見学コースよりもっと工場について知りたかったです。しかし、多くの質問に答えていただき、楽しく過ごせました。個人としてがんばれる工場かなぁと思いました。

東レ工場では授業で出てきた「ケブラー」にみんなの反応がよかったです。東レの技術が医療にも使われていて驚きました。「TRC（東レリサーチセンター）」では分析もしていることを初めて知りました。研究したいことができる、素晴らしい会社だと思いました。

米子高専ＯＢの方の説明もとてもわかりやすく、よい工場見学となりました。

建築学科

担任　西　川　賢　治

賑やかで、たいへん仲の良いクラスです。見学先の超高層ビルの工場現場では、建設会社の同年代の現場マンから工事についての説明を受ける機会があり、彼の態度や振る舞いに学生たちは大いに刺激を受けた様子でした。

貴重な体験　仲　田　達　也

今回の工場見学旅行で、僕は普通の高校生では体験できないことをたくさん体験することができました。

見学先は、人と防災未来センター、兵庫県立美術館、関西国際空港、鹿島建設の施工現場、国立国会図書館関西館、積水ハウス納得工房です。それぞれの見学先で様々な良い体験をさせていただきましたが、中でもよかったのが、施工現場見学と納得工房です。

施工現場は「西梅田プロジェクト」のブリーゼタワーという34階建ての大きな建物でした。施工中の大きな建物の中に入ったのは初めてでした。建物が出来るまでの過程を見ることは楽しかったです。納得工房では、住宅の構造や光の使い方を分かり易く納得しながら学ぶことができました。

僕にとって、この旅行はとても勉強になり、そして良いものになりました。この経験を今後の人生に役立てたいと思います。

クラブ便り

ヨット部　秋田わか杉国体に参加して

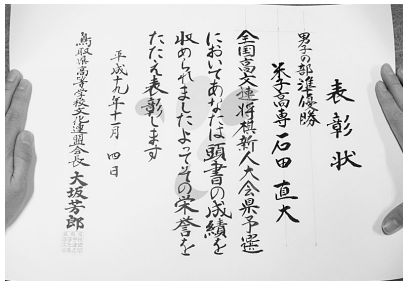
2C　木下　瑞（国体7位入賞）

国体で入賞することは去年からの大きな目標でした。去年の表彰式をみて「来年は絶対表彰台に立ちたい！」と強く思いました。今年の会場である秋田県の海面は風の強弱や振れが激しく、私も戦術面で力不足だったため安定して良い順位を残すことができず最後まで入賞できるか分かりませんでした。だから入賞の知らせを聞いたときはとてもうれしかったです。

ずっと苦手だった軽風の中でのレースで自分がここまで走れたのは指導してくれたＯＢの先輩方や指導者の方、そして苦しいときやつらいときに相談に乗ってアドバイスをくれた監督のおかげです。友達や家族からの応援もあり、本当にたくさんの方々の協力や支えがあって入賞することができました。ありがとうございました。（部員募集しています。たくさんの人にヨットの楽しさを知ってもらいたいです。）

将棋同好会　高文連将棋新人大会鳥取県予選に参加して

2D　石田　直大（準優勝、全国大会出場決定）



11月４日（日）に第16回全国高文連将棋新人大会鳥取県予選が倉吉体育文化会館で開催され、本校からは私を含む将棋同好会のメンバー４人が参加しました。この大会の上位２名は全国大会の出場権を得ることができ、また、同時に上位６名は中国大会に出場することができます。大会には県内の高校から総勢26名が参加し、スイス式トーナメントという少し変わった方式（勝ち負けが同数のもの同士が対戦する方式）で一人あたり５回の対局が行われました。私は、１局目から４局目までは順調に勝ち進むことができましたが、全勝同士が対戦する決勝戦（５局目）では鳥取西高校の松本君と対戦し残念ながら投了となりました。全国大会では、全力が出せるように頑張ります。

研究活動

研究紹介　専攻科生

トンネル効果を用いた透明電極の作製について

生産システム工学専攻2年　入江　知也（雜賀研究室）

数～数十層からなる原理配列の層が、厚さ数[μm]程度のものを薄膜と呼びます。この薄膜は薄型テレビの電極などに使用されています。しかし、使用されている電極は非常に高価で、原料となる物質の埋蔵量も年々減少しています。そこで本研究では、安価で人体に無害で環境にもやさしく、埋蔵量も豊富なZnO（酸化亜鉛）という物質を用いて薄膜を作製しています。しかし、通常の方法で作製される薄膜は絶縁性を有しているため、透明電極として使用することができません。そこで、トンネル効果（電子が壁を透過して染み出す現象）を用いることによってZnO薄膜が導電性を有することができ、実際に確認することができました。さらに良質な透明電極を作製するために、様々な条件下で作製された薄膜の特性の比較・検討を行っています。

隠岐島後における環境調節手法と住環境の調査研究

建築学専攻2年　中尾はづき（兼子研究室）

現在、大量のエネルギー使用を前提とした環境負荷が大きく、また地域性の薄れた住宅や建築がたくさん見られます。しかし昔から、伝統的な集落や民家では、自然のエネルギーや資源を上手く活用し、環境負荷の少ない暮らしをしてきました。近年、伝統的な生活の中で培われたサスティナブルな知恵や技術を再評価する気運が高まっています。

日本海に浮かぶ隠岐諸島島後は、冬に海から強い季節風が吹く厳しい状況下にあるため、宅地防風林、木、竹、笹など、古くから自然物を活用した防風対策が発達して、特徴的な集落景観をつくっています。

今回、その中の油井、蔵田集落を対象として、集落の気候、自然物を有効に活用した防風対策の手法、住民の住まいに対する満足度を調査しました。古くからの自然を活用した知恵や技術が今後の住環境づくりの手助けとなり、人と自然が再び共存できる住環境の再生に繋がればと考えています。

隠岐島後久見集落の調査合宿での一コマ

教 務 よ り

シラバス（授業計画）の冊子配布と外部公開

教務主事　　香川　律

今年度から、高学年への“学修単位”の導入を含む大幅なカリキュラム改定を行ったこともあり、全開設科目のシラバスを、冊子として４年振りに配布すると共に米子高専公式ホームページから外部公開することにいたしました。
（米子高専公式ホームページ→ http://www.yonago-k.ac.jp/ ）

シラバスの積極的な効用を以下に纏めてみましたので、学生の皆さんがこの趣旨をよく理解し、“学びの道しるべ”として有効に活用して頂くよう期待しています。

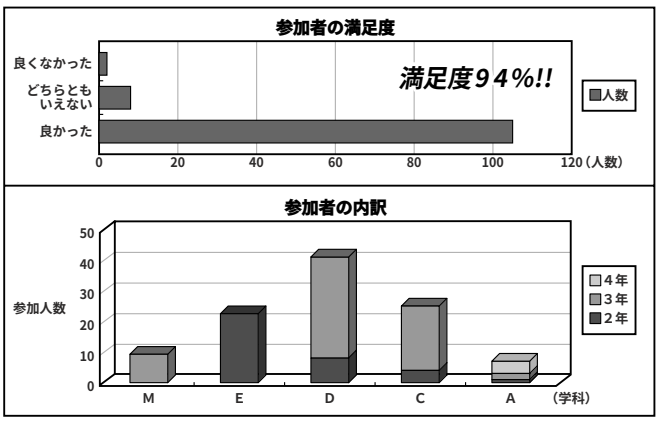
- **学生にとって**　主体的で計画的な学習のための**ナビゲータ（道しるべ）**
  学習・教育目標における位置づけも示されています。モチベーションの維持や向上に役立てて下さい。
- **教員にとって**　授業内容、方法そして評価方法などを改善するための**スタンダード（基準・観点）**
  自らの教育活動を客観的な基準・観点に沿い計画することで、質的な確保や向上が期待できます。
- **学校にとって**　体系的で計画的な教育活動を推進する上の**マニフェスト（声明）**
  公開することで、学生や保護者、そして地域社会の皆様からの理解や信頼に繋がると考えています。

専攻科生ＴＡを利用した低学年の学習支援

教務主事補　一般科目　竹内　彰継

今年度より専攻科生をＴＡ（ティーチングアシスタント）とした低学年の学習支援をはじめました。具体的には、定期試験前の放課後に専攻科生による１～３年生向けの質問受付教室を開催しています。専攻科生は本校の先輩でもあるため、単に質問に答えるだけではなく効率的な勉強法まで教えてくれます。その結果参加者からの評価は非常に高く満足度は94%にも達しています。ただ残念なことに参加者の学年、学科には相当な偏りがあります。この支援は今後も継続する予定ですので、一人でも多くの学生の皆さんが利用してくれるようお願いします。

専攻科生ＴＡに熱心に質問する低学年の学生達



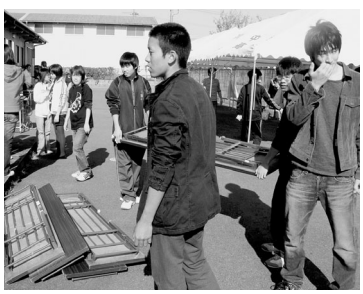
寮 生 会 便 り

われもこうまつり

3Ｍ　岸　和也

今年も10月21日に米子市彦名町の吾亦紅で「第12回われもこうまつり」が開催されました。今回はポップコーンや、焼きそばなどが出店され、さらにはカラオケなども行われ大変盛り上がりました。また、米子高専吹奏楽部による演奏会もあり、みなさん楽しんでおられました。

僕たち米子高専の寮生もボランティアとして参加しました。女子寮生は出店などの手伝い、男子寮生は片付けの手伝いをしました。僕も片付けをしましたが、重いテントや机などを運んだので、力仕事では役に立てたと思います。



粟島神社清掃

４Ｅ　山田　耕大

９月12日に男子寮生と女子寮生で粟島神社の清掃を行いました。これは寮生の毎年の恒例行事で、地域の方々と協力して草取り等を行います。粟島神社は粟島という山にある神社で、水鳥公園の近くにあります。高専生も粟島神社に部活動で走りに来ることもあります。だから、僕たちの身近にあるこの自然を守るため、また、地域の方々との交流を深めるために米子高専の寮生が毎年この時期に清掃を行っているというわけです。思った以上に草も多く大変な作業でしたが、男子女子寮生や地域の方々と協力し合い綺麗にすることができたと思います。粟島神社清掃は高専と地域のつながり、また米子の自然を大切にすることにつながります。これからも継続していきたいと思います。

1　年　生　の　遠　足

1学年主任　建築学科　山田　祐司

特別行事の２日目の10月18日（木）、１年生は遠足に行きました。各クラスの行き先は次の通りです。

機械工学科	松江市内自由行動
電気情報工学科	松江市内自由行動
電子制御工学科	湊山公園、YSPボウル
物質工学科	倉敷チボリ公園
建築学科	岡山市内自由行動

各クラスとも学生の希望を基に行き先を決定しています。

1C　チボリ公園にて

1A　池田動物園にて

中国地区高専英語弁論大会暗唱の部で優勝

一般科目　中井　大造

11月17日（土）津山高専で第23回中国地区高専英語弁論大会が開かれました。弁論の部と暗唱の部とがあり、暗唱の部で電子制御工学科２年生の田邊良君が見事優勝の栄冠に輝きました。暗唱したのは落語の「厩（うまや）の火事」を英語にしたもので、扇子を手に落語家よろしく声色を使い分け、５分間を見事に演じきりました。審査員や聴衆の受けも良く、審査員の講評でも楽しめるパフォーマンスだったと好評でした。23回の弁論大会の歴史のなかで、米子高専は暗唱の部では過去７回優勝してきており、次に優勝の多い高専の４回と比べると他の追随を許さない成績を残しています。今年度から全国高専プレゼンテーションコンテストが設けられ、来年の１月には東京で全国大会が開催されます。この全国大会は弁論の部とプレゼンテーションの部で構成され、残念ながら暗唱の部はありませんが、今後弁論の部でも入賞者が出て、是非全国大会に出場する学生が出てくることを期待して止みません。

表彰式の様子

第２回オープンキャンパス

教務主事補　一般科目　竹内　彰継

11月10日に第２回オープンキャンパスを行いました。これは昨年度からはじまった新しい行事で、夏の第１回オープンキャンパスでは施設見学という色彩が濃かったのに対し、一般科目や専門学科の体験授業を中心とした一歩踏み込んだ内容となっています。さらに、今年度は専門学科教員による学科紹介の時間も設け、参加者全員が全学科の特長や独自性の説明を受けられるようにしました。また、本科５年生代表による本校の紹介も行い、学生の視点から見た本校の良さもアピールしました。

当日は天候も良く、参加者は中学生が88人、保護者及び引率者が31人でした。また、オープンキャンパス終了後に行ったアンケート調査の結果「体験授業の時間をもっと長くしてほしい。」とか「早く高専に入学して色々なことを学びたい。」といった多数の肯定的意見をいただきました。

一般科目体験授業

電気情報工学科体験授業

物質工学科体験授業

建築学科体験授業

産官学連携フェスティバル2007

地域共同テクノセンター　建築学科　兼子　朋也

10月24日、鳥取市の鳥取県民文化会館にて、「産官学連携フェスティバル2007」が開催されました。「さがそう！みつけよう！事業化の種」をスローガンに、基調講演、パネルディスカッション、シーズ（研究）発表会、交流会といった充実したプログラムが組まれ、鳥取県内の企業、大学、高専、短大、研究機関などから多くの人々が参加し、盛況な催しとなりました。

基調講演では、青木豊彦氏（東大阪市の町工場の名物社長）が「夢の実現で地域活性化を」というテーマで、東大阪での自身の体験と人工衛星まいど１号の打ち上げプロジェクトについて紹介され、人々に夢と希望を与えながら地域を元気にした産官学連携の事例を、面白く熱意を込めて、お話しされました。

パネルディスカッションでは「地域資源を活用した産官学連携」のテーマで、企業経営者が鳥取での産学官連携の事例を紹介し、また、鳥取大学から外部資金獲得状況の説明があり、「額は年々増加し地方国立大学としては大変健闘している」との紹介もありました。青木社長の「鳥取にはすばらしい地域資源がたくさんある」との言葉もあり、地域の資源を活用し、地域の誇りと元気を湧き起こす研究・技術・ビジネスの創生にむけて、産官学と金融機関を含めた産官学金連携の機運は一層高まったように見受けられました。

シーズ（研究）発表会では、合計162件と多くのポスター展示があり、企業、大学等の研究活動や事業化の種を積極的にプレゼンテーションしていました。うち13件は本校からの展示であり、本校の活発な研究活動や本校に存在する知的資源をアピールする絶好の機会となりました。それぞれのポスターの前では活発な意見交換が行われ、大変有意義な場であったように思います。発表いただいた先生、関係者の方々に、お礼申し上げます。

今後とも、地域との連携、地域への貢献にご協力をよろしくお願いいたします。

建築学科学生デザインによる自販機設置

建築学科　高増　佳子

喜八プロジェクトという米子市出身の映画監督岡本喜八氏の精神を受け継いで街を元気にしようという活動が行われています。

その活動の一貫で建築学科学生デザインによる自動販売機が米子市内に３台設置されました。建築学科５年全員でデザインを応募し、以下３名のデザインが採用され、米子市内に設置されました。

米子信用金庫前に
設置された自販機

西尾亜由美（写真：米子信金本店前）、石村悠造（ライブハウスベリエの中）、長谷川雄紀（ライブハウスベリエ前）。

その他、実現には至らなかったものの、アイデアがよいとして竹田純平、藤原佑樹のデザインも高い評価を得ました。

今後、米子高専の中にも学生デザインによる自販機が設置される予定です。

夏休み高校生議会に参加

３Ｄ　和田　泰治

議会の様子

今年の高校生議会に出て、大変多くのものを学ぶことができました。県議会の議場という、普段の生活では決して立つことはない場所で、発言し、答弁をすることができて、あの場所で、あの席で県政に携わる議員の方々の空気に触れることができました。

様々な問題が提示され、中でも印象的だったのは、鳥取商業の若林さんがされたフェアトレードの問題についてです。公平な貿易を行うためには、例えば90円のチョコレートを３倍もの値段にしなければならないと聞き、とても驚きました。そこから鳥取が世界に対してどのような協力ができるのかという質問で、知事はそれに鳥取県が実際に行っている協力を紹介して、またその際議論が行われて行き詰まってしまうとも仰っていました。そしてそんな時に力となるのは民間の力なのだと仰いました。

他にも多くの素晴らしい答弁がされました。もし来年も開催されるのならば、是非また高専の誰かが行って貴重な経験をしてきてほしいと願っています。

全日本高校・大学生書道展「展賞」受賞

物質工学専攻2年　星野　辰弥

去る８月21から26日に大阪市立美術館で開催された「第12回全日本高校・大学生書道展」（読売新聞社、社団法人日本書芸院主催）において「展賞」を受賞しました。応募総数9653点の内、入賞は約13%、「展賞」はその内の約３％という厳しい審査を突破でき、とても嬉しく思います。今年の題材は「新古今和歌集」の秋歌１首を縦180cm、横60cmの紙に秋の情景をイメージする構成にしましたが、思うように時間がとれず書き込み不足を後悔しながら出品した上での朗報でした。書は皆が同じ手本を見て字を書いたところで、誰一人として同じ字は書けません。個々の人の指紋のように、筆者の性格や経験、その他の色々な要素が混在した上で、その時の筆者の感情が込められた結果、上手下手を卓越した個性ある書が生まれるのだと思います。

星野君の作品

最後に今まで支えて頂いた先生方、同好会の後輩たちに感謝すると共に、今後後輩たちが自らの手で各々にしかない個性を磨き、素敵な書を書いてくれることを期待しています。

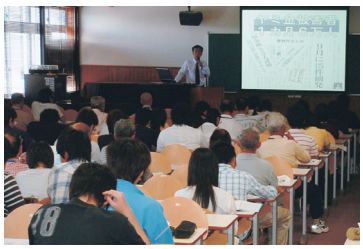
地域交流

「くらしの経済・法律講座」の開講

地域連携講座

一般科目　加藤　博和

４年生の人文社会選択科目として「社会科学Ⅲ（くらしの経済・法律講座）」を10月３日（水）より開講し、53名が履修しています。この科目は鳥取県生活環境部消費生活センターとの連携企画で、講師として弁護士や金融アドバイザーなどの専門家が登壇し、「特定商取引法とクーリングオフ」、「貯蓄・株式に関する基礎知識」、「著作権について（講師：水島校長）」など15回（中間試験を含む）で構成されています。


合同講義室での受講風景

学生は法律や経済に関する知識を実例にも触れながら学ぶことができ、「分かりやすかった」という感想が多く見られます。中間・期末試験と自学自習のレポート提出に基づいて２単位を認定することになっています。

この科目は一般県民の方も受講でき、まさに合同講義室で本校学生と県民が一緒に授業を受けるという特長があります（県民の方については定員を上回る応募があり、既に申し込みは締め切られています）。それゆえ最初は戸惑いもありましたが、回を重ねるごとに落ち着き、県民の多くの方が学生と一緒に受講して「良かった」と回答されています。今後、アンケート結果などを参考にして、一層充実した連携講座になるよう努めていく予定です。

パソコンで作る年賀状教室

出前講座

電子制御工学科　河野清尊、中山繁生

公民館で実施させていただくこの出前講座を始めて今年度で５年目になります。今年度は彦名公民館（11/８）と大篠津公民館（11/29）から出前講座実施の依頼を受けました。

講座内容は、マイクロソフトのWordを用いて、デジカメで撮影した写真やスキャナで取り込んだ画像を貼り付けたオリジナルの年賀状を作ることを目標にして、Wordの使い方と文字を中心に写真等を貼り付けた年賀状および完成素材やフレーム素材を用いた年賀状の作成を約３時間で行うものです。

彦名公民館では50歳代から70歳代までの11名（男性５名、女性６名）の受講者がありました。みなさんが真剣に取り組んでくださったことと、講師２名とアシスタントの専攻科生２名（野口傑君と西村慎介君）の計４名できめ細かい指導を行うことができたので、十分満足していただけたようです。

彦名公民館での講座風景

来年度以降もより多くの公民館でこの講座を続けることがきたらと思っています。なお、彦名公民館での講座の模様は中海テレビの取材を受け放映されました。

米子市中心市街地活性化フォーラム

建築学科　片木　克男

鳥取県西部地域の、また米子市中心市街地の重要拠点であるJR米子駅については、かつてつくられた市の駅南北一体化構想がらみで、交通結節点としてのバリアフリー化が遅れており、駅施設自体の方向づけと構内整備が急がれる状況にあります。

そういう中で、10月27日（土）に、米子商工会議所青年部主催の米子駅をテーマとした中心市街地活性化フォーラムが開催されました。まず「道州制を見据えたまちづくりと駅」の演題で、中田米子市議会議員さんと共に、私は専門の都市計画の観点から講演をさせていただきました。講演の後には、参加者による「米子市の将来像と米子駅のあり方」というテーマでのワークショップが行われました。当日は、本校建築学科４～５年生11名を含め80名ほどの参加があったそうですが、学生にとっては、一般社会人・若手経営者と小グループで意見を交換する貴重な機会であったと聞いています。

商工会議所での講演の様子

弓ヶ浜小学校第２４回音楽の夕べに出演

吹奏楽部顧問　建築学科　山田　祐司

11月17日（土）の午後、高専から３kmほど離れた弓ヶ浜小学校で開かれた表記の音楽会に出演しました。これは同校の児童たちによる学習発表会が午前中で終わった後、地域の演奏団体による演奏を児童達に楽しんでもらうための催しです。米子高専吹奏楽部は平成16年から出演させていただき、今年は４回目になります。演奏した曲目は以下の通りです。

- 風の丘（魔女の宅急便より）
- 残酷な天使のテーゼ
  （テレビアニメ『新世紀エヴァンゲリオン』のオープニング主題歌）
- ピンクレディー・メドレー
- ドラえもん　アラカルト

弓ヶ浜小学校の児童、保護者を中心に約200人の方に聞いていただき、好評を得ることができました。

弓ヶ浜小学校での演奏の様子

編集後記

紙面へのご意見・ご感想を、メール（hikona@yonago-k.ac.jp）にてぜひお寄せください。
※記事中において、学科名をアルファベットで表している箇所があります。
M…機械工学科、E…電気情報工学科、D…電子制御工学科、C…物質工学科、A…建築学科、G…一般科目
例えば、「１M」は機械工学科１年生を表しています。

発　行：米子高専広報委員会
〒683-8502　鳥取県米子市彦名町4448　TEL：0859-24-5023　FAX：0859-24-5029
E-mail：hikona@yonago-k.ac.jp　ホームページ：http://www.yonago-k.ac.jp/hikona/　印刷：(有)米子プリント社
R100 古紙配合率100% 再生紙を使用しています。